



# NEWS LETTER

No.26  
2020

11月19日(火)

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)3機関合同シンポジウム 「豊かな健康長寿社会をめざして」

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学の3機関は、平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」の採択を受け、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに連携して取り組んでいます。事業期間の後半では、山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)と連携を強化し、未来の豊かな健康長寿社会の実現をめざしています。

今年度は事業5年目を迎え、これまでの女性研究者の研究成果をCOIと連携して社会実装し、地域の未来の豊かな生活創造へ貢献することを目指し、令和元年11月19日(火)にシンポジウムを開催しました。会場は山形大学米沢キャンパス11号館未来ホールで、健康な食生活に関心をお持ちの市民、企業、行政の皆様はじめ、米沢栄養大学の学生、高校の家庭科教員などの42名と連携機関の関係者36名、合計78名の参加がありました。

1 開会の挨拶 13:30～ 山形大学 理事・副学長 阿部宏慈

2 女性研究者共同研究報告 13:35～

「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザイン・プロジェクト活動内容」 黒谷玲子(山形大学学術研究院 准教授)

3 講演 14:10～ 「豊かな健康長寿社会の『食』～うま味の伝道師からの提案」 二宮くみ子 氏(NPO法人うま味インフォメーションセンター 理事)

4 女性研究者共同研究報告 15:20～

「加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響:味覚障害を呈する認知症を捉える」 伊関千書(山形大学学術研究院 講師)

「適切な嚥下調整食を提供するための運用ツールの開発」 三原法子(山形大学学術研究院 講師)

5 「SDGs × COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」 16:00～ 原田知親(山形大学学術研究院 助教)

6 閉会の挨拶 16:55～ 米沢栄養大学 学長 鈴木道子 氏

### 【内容】

#### (1) 講演



講師 二宮くみ子 氏

「うま味の伝道師」として世界的に活躍されている二宮くみ子様を講師にお迎えし、ご講演いただきました。二宮氏は、1982年に味の素株式会社に入社され、上席理事などを経て、現在はNPO法人うま味インフォメーションセンターの理事を務め、うま味研究の推進や普及活動を積極的に行っています。講演では、旨味(うまい味)とは異なり、「うま味」とは味覚の一つで、その成分はグルタミン酸ナトリウム、イノシン酸ナトリウム、グアニル酸ナトリウムであること、和食は低カロリーで塩分控えめでも満足感が得られること、昆布水が口腔ケアにもつながることなどについて、科学的な根拠や具体例も含めて紹介いただき、健康と食について新たな視点で考える貴重な機会になりました。アンケートでは非常に有意義だったという方が大多数で、「高齢者の唾液の分泌を促進し、減塩としても使うことができ、さらに美味しいという嬉しい効果ばかりだと思った」、「離乳前の赤ちゃんもうま味を喜ぶことが興味深かった」、「うま味、ダシを健康などに応用できないか考えたい」などの感想がありました。

#### (2) 女性研究者共同研究報告

講演を挟んで、共同研究・社会実装を目指して、サービスデザインプロジェクトや女性研究者共同研究の報告を行いました。これまでの研究成果を山大COIと連携して社会実装し、地域の未来の豊かな生活創造に貢献することを目指し、健康や食をテーマにした3つの研究の報告を行いました。様々な分野の女性研究者の報告に対して、「女性の視点でとても面白い」、「早く実用化してほしい」、「総合大学であるメリットをフルに活用し、複合的に健康の研究が進められていることを心強く感じた」などの感想が参加者から寄せられました。



会場の様子

#### (3) COI若手連携共催

##### 「SDGs × COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」

COIの協力により、若手研究者と女性研究者のポスター発表を初めて開催しました。会場の11号館2階ラウンジにシンポジウム参加者が全員移動し、参加しました。ポスター発表者は11名で、米沢栄養大学から女性研究者2名が発表を行い、学生7名も参加しました。また、COIより未来の豊かで快適な生活・社会を実現する取組の報告などもあり、SDGsの観点から多様な分野の研究成果を交流する機会となりました。



研究者交流会

# 山形大学男女共同参画基本計画(第2次)

平成22年に策定された山形大学男女共同参画基本計画の計画期間が令和元年度で終了するため、山形大学男女共同参画基本計画(第2次)を策定しました。

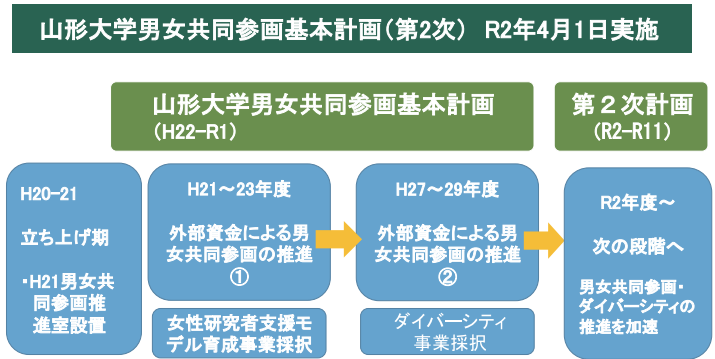
第2次基本計画のパンフレットを作成し、教職員の皆様にお届けしますが、経過や概要についてお知らせします。

## 【経過】

山形大学男女共同参画基本計画(第2次)を策定するために、山形大学男女共同参画推進委員会にワーキンググループ(座長は河野銀子委員)を設置し、山形大学男女共同参画推進委員会を3回開催して検討を行いました。そして、これまでの計画期間の成果や昨年度実施した「男女共同参画に係るアンケート調査」結果を踏まえ、また我が国の男女共同参画に係る動向と国立大学協会における目標等に鑑み、男女共同参画に加えダイバーシティを一層推進することを目的に、方針及び具体的な施策を策定したものです。

さらに、基本計画(第2次)の策定に伴い、新たな基本方針や委員の選出方法(各キャンパスから選出)などの改正点を記載し、「山形大学男女共同参画推進に関する規程」の一部改正を行いました。

5月16日	第1回男女共同参画推進委員会の開催
6月13日	ワーキンググループ(1回目)
7月10日～31日	ワーキンググループ(2回目、メール審議)
8月9日～23日	ワーキンググループ(3回目、メール審議)
9月3日	第2回男女共同参画推進委員会の開催
9月11日	教育研究評議会
9月18日	各部局教授会
10月25日	ワーキンググループ(4回目)
11月29日	第3回男女共同参画推進委員会の開催
12月～令和2年1月	役員会、教育研究評議会、経営協議会



## 【山形大学男女共同参画基本計画(第2次)の概要】

主な変更点としては、目的にダイバーシティの推進を加え、女性教員比率などに関するより高い数値目標、無意識のバイアスのチェック、性的指向・性自認の配慮などを明記しました。平成30年度に大学コンソーシアムやまがたに設置した「ダイバーシティ推進ネットワーク」など、他大学や地域との連携は一層推進していくことにしています。

主な内容は次のとおりです。(第2次基本計画より抜粋)

### 1.教職員等の男女機会均等の実現・格差の是正

- 令和11年度までに、大学全体の教授の女性比率は15%以上、准教授は23%以上、女性教員比率は20%以上の達成を目指す。
- 役員、副学長、部局長、経営協議会委員、教育研究評議会評議員は、20%以上の達成を目指す。
- 女性教職員の人材育成のため積極的な方策を推進し、管理職比率の向上に向けた登用等を積極的に行う。
- 無意識のバイアスに配慮し、積極的な改善策がとられているかを点検するなど、男女格差是正のためのチェック機能を導入する。

### 2.教育・研究及び就労と家庭生活との両立のための環境作り

- ユビキタス・ワーキングを可能にする環境を整備する。
- 男女共同参画の実現を目的とする相談体制、研究継続支援員及び学会出張時の支援体制を整備する。
- 保育制度と育児・介護支援を充実し、就労環境・就労慣行の見直しを図る。

### 3.意見・要望等をくみ上げ、共有するシステムの整備

- 男女共同参画及びダイバーシティに関する施策の策定や実施に関する意見や要望を積極的にくみ上げ、情報を共有し、相互に協力して対応するシステムを整備する。

### 4.意識改革の促進

- 個々の性別、性的指向・性自認にかかわらず、本学の学生及び教職員が自然にお互いを認め、受け入れられる組織を目指す。
- シンポジウムやセミナー等を開催し、学内外へ情報発信する。
- 女性研究者ネットワークを構築し、学長・学部長と女性研究者との懇談会を開催する。

### 5.女性研究者の裾野拡大

- 女子中高生向けのセミナー・交流会等を開催する。
- 女性学生の研究活動の活性化に向けたネットワーク活動を支援する。

## 6.教育・研究の充実

●男女共同参画及びダイバーシティに関連する授業や女性のキャリア支援教育科目を拡充し、優れた取組に対する表彰制度を設ける。

## 7.学内の調査・分析・統計等の情報提供

●男女共同参画及びダイバーシティに関するアンケート及び調査を定期的実施し、基本的データを公表する。

## 8.地域社会等との連携

●男女共同参画及びダイバーシティに関して他大学や地域の自治体等とのネットワークを築き、連携を図る。

# ワーク・ライフ・バランス懇談会の開催

小白川キャンパス(理学部担当)では、11月6日(水)、「一人ひとりのワーク・ライフ・バランス～バランスすることの意味を考えてみませんか」をテーマに、(株)キャリア開発サポータズの浅野氏から話題提供の後に意見交換を行いました。教職員32人が参加しました。

鶴岡キャンパスでは、1月21日(火)、「働きやすい職場環境を実現するためのワークライフバランス」をテーマに、教職員16人が参加し、教職員の誰もが働きやすく、研究しやすい環境づくりを行うことをめざし、日頃感じていることや要望等について、率直な意見交換を行いました。

米沢キャンパスでは、2月10日(月)、「男性教職員・男子学生が多い米沢キャンパスにおける男女共同参画—女性・男性が教育・研究に没頭できる環境実現に向けて—」をテーマに、参加者が意見を交換しました。教職員20人が参加しました。

11月6日(水)  
小白川キャンパス



1月21日(火)  
鶴岡キャンパス



2月10日(月)  
米沢キャンパス



# 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

11月21日(木)  
米沢キャンパス



セミナー会場の様子

米沢キャンパス附属図書館(3階ラーニングcommons)で、山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院が主催するセミナーが開催されました。(参加7人)

講師 基盤教育機構 准教授 松坂暢浩 氏

コメンテーター 基盤教育機構 准教授 山本美奈子 氏

前半のセミナーでは、松坂准教授より、就職活動や採用面接などについて講義が行われ、後半では卒業生・現役院生の4人をパネリストに迎え、ディスカッションが行われました。また、山本准教授から女性研究者の就職なども含めたアドバイスをいただき、熱気溢れる有意義なセミナーとなりました。

# 全国ダイバーシティネットワーク OPENeD (<https://www.opened.network/>)

平成30年度科学技術人材育成費補助事業「全国ネットワーク中核機関(群)」(幹事機関は大阪大学)のウェブサイトOPENeDが開設され、参考事例として山形大学の研究力向上に関する取組が紹介されました。このプラットフォームでは参考となる事例等の様々な情報を発信するとともに、日本アイ・ピー・エム株式会社や日本学会会議と連携して調査研究を実施しています。今年1月に女性研究者を対象とするアンケート調査が実施されましたが、結果は来年度のシンポジウムで発表される予定です。

# 小白川キャンパス保育所よりお知らせ

「のびのび」・「つぼみ」ともに、令和元年10月から幼児教育・保育の無償化の対象施設になりました。ご利用をお待ちしています。(連絡先 男女共同参画推進室 内線4937)



中村 文子 先生  
人文社会科学部 准教授



私の専門は国際関係論です。その中でもとくに性的搾取を目的とする人身売買（人身取引）を事例として扱いつつ、これを禁止する国際的なルールがどのように普及・定着するのかを研究しています。

国際社会は国連を中心に人身売買を禁止する条約を締結しました。人身売買を明確に「犯罪」と規定したこの条約の締結は、人身売買の問題解決に向けた大変重要なプロセスの一つですが、未だに人身売買は無くなっていません。それはなぜなのでしょう。

人身売買は強制労働、臓器売買、性的搾取を目的としたものがありますが、そのうち、性的搾取を目的とした人身売買が半数を超え、その被害者は女性が7割を占めています。被害者たちは、主に貧しい低開発地域から豊かな先進地域へ売買されています。このことから、貧困や経済格差が問題の基底にあることは間違いありません。また、売買は国境を越えて行われるケースが数多くあります。従って、人身売買の搾取の形態で半数以上を占める性的搾取の被害者は主に女性であり、外国人であり、貧しい人々なので

## 「人身売買から差別を考える」

す。この被害者と加害者の特徴を抽出すると、そこには、男性／女性、内国人／外国人、貧者／富者の3つの非対称的な権力関係の存在が見えてきます。そして被害者はその劣位に置かれた人々なのです。この非対称的な権力構造では権力者の被権力者に対する差別を伴うことが多くあります。権力者は自らの集団が属する社会集団の権力を維持し拡大するために、被権力者の集団から利益を奪取る搾取の制度を形成しようとする。その際、例えば男性は権力を維持するために家父長制や性別役割分業観を女性に押し付けます。それを正当化する手段として、差別が援用されるのです。男性が女性より権力を保持できるのは「男性が女性よりも優れているから」であり、「能力の低い女性に政治は任せられない」。また、外国人が権力から排除されるのは、「外国人が自国民よりも劣っているから」。それは例えば、数々の戦争の経験から得た感覚もあるでしょう。貧者に対する差別と排除は、「貧者は社会の治安・安定にとって危険であるから」といったような説明がなされます。人身売買において人を売る側と売られる側との間に経済格差があっても、最後に人を売買することを可能にさせてしまうのは、そのような差別が根底にあるからだと考えています。

そのような差別を乗り越える新たな規範を社会的に構築し浸透させるために、反人身売

買を働きかけるNGOや国連をはじめとする国際機構、EUなどの地域機構による活動の連携が必要です。そして、私たちの中にある偏見・差別を無くしていく必要があります。

ここまで、人身売買での女性や外国人、貧者に対する差別について述べてきましたが、私達の社会はそれ以外にも多くの偏見・差別にあふれています。たとえば会社では「女性だから出世に限界がある」だけでなく、男性であっても、持っている思想や出自、学歴や上司の受けのよし悪しで出世が左右されるなど、本人の実力ではない部分に依拠されることが多くあります。障がいを持つ人達に対する差別・偏見は深刻な犯罪を生み出しています。性的マイノリティとされる人々は学校や社会で大変生きづらい生活を送っています。何が問題の本質なのか—私達は社会にあるあらゆる偏見・差別について考える必要があると思っています。



ゼミ風景

## 女性研究者の裾野拡大のための事業

### 【農学部】「農学部ってどんなところ？研究者になりたい！」～卒業生の体験談を聞いてみよう～

令和元年7月28日(日) 農学部3号館302講義室

講師：網干貴子 氏(農学部・准教授) 参加人数：女子高校生約40名と保護者

### 【地域教育文化学部】「比べてみよう！～日本と海外における化学の勉強～」

令和元8月3日(土) 基盤教育2号館213

講師：中西 正樹 氏(地域教育文化学部・教授) 参加人数：高校生 14人と保護者

### 【工学部】女性研究者裾野拡大セミナー 2019 in 山工工学部

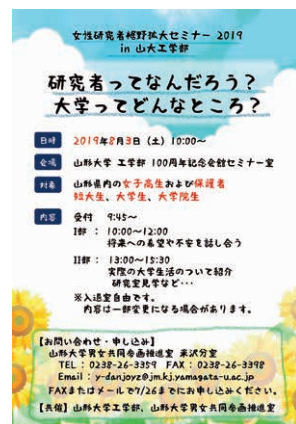
令和元8月3日(土) 工学部100周年記念館セミナー室

講師：黒谷玲子 氏(工学部・准教授) 参加人数：高校生5人と保護者

### 【理学部】(高校1年生向)・理学部で何ができるのか？女子高校生のための山大理学部案内

令和元10月2日(水) 理学部1号館14番講義室等

講師：金井塚勝彦 氏(理学部・教授) 参加人数：高校生123人と保護者



工学部のチラシ

編集後記／今年度は、男女共同参画推進室が設置されてから10年の節目の年でした。男女共同参画推進委員はじめ多くの皆様のご協力のお蔭で、山形大学男女共同参画基本計画(第2次)が策定されました。令和2年度より新たなステージに進むことを誇りに思います。まずは、新学長の下、各キャンパスの推進組織と連携協力し、全学が一体となった推進体制づくりが必要ですので、よろしくお願ひします。(2020年2月)



### 山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12  
TEL 023-628-4937/4938/4939  
E-mail y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/